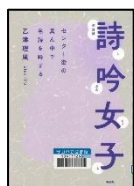


今月の PICK UP



『詩吟女子 改訂版』 おつ りふう 乙津 理風／著 春秋社 768.9 円



詩吟をご存知でしょうか。漢詩、和歌、俳句などの古典の名詩を大きな声に出して読み、独特の節をつけて歌う日本の伝統的な歌唱法で、江戸末期に江戸の学問所などで始まったそうです。現在も200ほどの流派があり、老若男女多くの愛好家がおられ、著者も吟道の師範です。

本書では、数多くの名詩を12カ月に分け、それぞれの時期に吟じたい詩を紹介しています。たとえば、1月には何かいい予感がする詩、9月にはお月見をしながら吟じたいロマンティックな詩など。詩に添えられた解説もわかりやすく、もっと知りたくなるのではないのでしょうか。ほかにも詩吟の発声法やQ&A、実際の動画が見られる QR コードがついており、詩吟について理解が深まる1冊です。

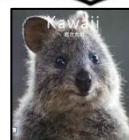


『Kawaii』 岩合 光昭／著 クレヴィス 489.3 円

野生の世界で生きる動物に「かわいい」と言うのはおこがましいと思っていた岩合さん。その考えを変えたのは、オーストラリアで聞いた「Kawaii」の温かな響きでした。

本書はオーストラリアに棲む有袋類、ウォンバット・クオッカ・コアラの写真集です。見る人を魅了してやまない動物たちの表情や仕草には、まさに「Kawaii」という言葉がぴったりです。

司書の
おすすめ



『本当はごはんを作るのが好きなのに、しんどくなった人たちへ』 コウ ケンテツ／著 ぴあ 596 円

毎日のごはんを作るって大変ですね。そんなあなたの気持ちに寄り添ったのがこの1冊。作る人に元気であってほしいという思いがあふれたコウケンテツさんのエッセイ集です。料理を楽しむ気持ちを取り戻すため、まずは「周りの環境を変える」ことを提案しています。親しみやすい文章に、実用的なお気軽レシピ付きで、またキッチンに立ちたくなるはずですよ。



『女二人のニューギニア』 有吉 佐和子／著 河出書房新社 915.6 円



現地でフィールドワーク中の文化人類学者の友人に誘われ、軽い気持ちでニューギニアに行った著者。山登りなど一度もしたことがないのに、友人の調査のため1日7、8時間、丸3日もかかる山越えに同行することになります。足の爪ははがれ、見たこともない虫の大群に囲まれ、あまりのつらさに弱音を吐く著者と、対照的に豪快な友人。2人のやりとりに思わず笑ってしまいます。

本書は1985年刊の再刊、1968年ニューギニアの奥地での滞在記です。今から57年前の出来事ですが、全くそんなことを感じさせません。

『世界の果てまで行って喰う』 石田 ゆうすけ／著 新潮社 290.9 円

自転車で7年半の間に87カ国を周り、世界一周の旅を成し遂げた著者。本書は、その後の旅を含めて地球三周分もの距離を旅した中で出会った、様々な食の記録です。

極限状態の時でさえユーモアを交えて書かれる旅の様子は面白く、冒頭から初めて知ること満載で引き込まれます。世界各国の食にまつわる意外なあれこれをのぞいてみませんか。

